

高レベル放射性廃棄物の地層処分についての情報呈示が リスク認知に与える効果の検討：リスクの多義性に着目して

Effects of Presenting Information on Risk Perception for Geological Disposal
of High-Level Radioactive Waste: With Focus on the Ambiguity

*浦山 郁¹, 土田 昭司²

¹ 関西大学大学院 社会安全研究科, ² 関西大学 社会安全学部

本研究は高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する情報呈示により、リスク認知や賛否等にどのような変化がみられるのかを検討することを目的に実施した。特に、専門家間での議論が続いているという多義的な情報を呈示することによる効果に着目した。本発表では、2019年12月にインターネットを用いた質問紙実験(N=1,000)の結果について報告する。またその際、多義性・曖昧さの捉え方といった個人特性等や呈示する情報への自由への脅威などについても考慮に入れた分析について報告する。

キーワード：多義性, 高レベル放射性廃棄物, リスク認知

1. 問題・目的

市民が行う科学技術に対するリスク認知においては、リスクに対する情報の質によってその判断の困難さが異なることが指摘されている(土田ら, 2018)。特に不確実性や多義性を含むリスク情報は市民にとっての判断が難しいとされる。これまで、土田ら(2019)によって個人特性としての曖昧さ耐性とリスク認知との関連は調査によって明らかにされてきたが、実験的手法を用いた研究は見受けられない。そこで本研究では、高レベル放射性廃棄物の地層処分を例として専門家間で様々な意見があるという情報(多義的情報)を伝えることが、市民のリスク認知にどのような影響を及ぼすのかを質問紙実験を用いて検討した。

2. 実験結果

2019年12月17日(火)から19日(木)にかけて、インターネットを用いた質問紙実験を実施した。実験の実施は外部の調査会社に委託し、日本国内に住む16歳から86歳までの男女1000名からの回答が得られた(平均年齢47.64歳(SD=13.24))。実験は被験者間要因で多義性情報呈示群(N=500)と非呈示群(N=500)の2群を配置した。質問項目はリスク認知(危険性認知と安全性認知)、主観的・客観的知識量、関心、賛否(総論と各論)等から構成されており、一部の項目については情報呈示前後に同様の質問を行なって情報呈示の効果を確認した。なお個人特性としての曖昧さ耐性は西村(2007)の曖昧さへの態度尺度を用いた。

3. 結果

多義性情報の呈示の有無によるリスク認知への直接の影響は確認されなかった。一方、個人特性としての曖昧さへの耐性の違いによって、多義性情報を呈示することによるリスク認知への効果が異なることが明らかになった。今後は実験結果の適用可能性について検討するとともに、呈示する多義性情報についてさらなる検討が必要である。

参考文献

- [1] 土田昭司編著, 2018, 安全とリスクの心理学：こころがつくる安全のかたち, 培風館。
- [2] 土田昭司, 浦山郁, 静間健人, 2019, 曖昧さへの不耐性がリスク認知におよぼす効果, 日本社会心理学会第60回大会発表論文集, 36。
- [3] 西村佐彩子, 2007, 曖昧さへの態度の多次元構造の検討—曖昧性耐性ととの比較を通して, パーソナリティ研究, 15(2), 183-194。

*Kaoru Urayama¹, Shoji Tsuchida²

¹ Faculty of Societal Safety Sciences, Kansai Univ., ² Graduate School of Societal Safety Sciences, Kansai Univ.